

つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人才

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：弘前大学（総括責任者：佐藤 敬）

プロジェクトの概要

(1) 女性研究者のための具体的な取組

本課題の取組としては、女性研究者フォーラムの新設とともに、目的別タスクチームを編成し、男女共同参画推進室がこれらの活動のための基盤的環境整備を行う。女性研究者フォーラムは、女性研究者の交流による情報の共有化と女子学生へのロールモデル提示を行う。目的別タスクチームは女性研究者の研究力を強めるタスクチームと、理系の裾野を広げるタスクチームの 2 つからなる。前者は女性研究者の研究継続支援や研究資金獲得、研究成果公表のための支援体制作り、赴任予定教員のパートナーをフェローとして採用するシステムの検討を進める。後者は実験のできる理科教師の育成などを通じて次世代を担う人才の掘り起こしと若手女性研究者の育成を行う。

(2) 期待される効果

1) 地方の研究機関一般に応用できるモデルの発信、2) 環境整備による女性研究者の応募と採用数の増加、3) 女性研究者の新たなライフコースモデルの提示、4) 潜在化する人才の発掘と研究活動の活性化による研究レベルの向上、5) 地域に根ざした研究教育機関としての活動の活発化

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

地域の大学の特色や問題点を良く分析した上での取組であり、パートナーフェロー制度の試行、地域に潜在する人材の活用、全学的な女性研究者ネットワークの構築、北東北国立 3 大学連携など、波及効果の高い取組が評価できる。今後は、理工農学系の女性研究者の増加に向けた取組を期待する。

- ・**目標達成度**：女性研究者ネットワーク構築、地域自治体や他大学とのネットワーク構築、新規採用女性研究者比率及び大学院女子進学率の数値目標等、所期の目標はほぼ達成されており評価できる。しかし、理系の女性研究者の新規採用は医学系に偏っているため、今後は理学・農学系における採用の増加を期待する。

- **取組**：女性研究者フォーラムの開催、研究支援員の配置、学会託児支援、研究力強化支援等、支援効果の高い取組を実施し、女性研究者の科学研究費補助金の採択率の大幅な向上、研究業績の向上に繋げた。特に、パートナーフェロー制度は地域の大学の実情を踏まえた波及効果の高い取組として評価でき、今後の展開を期待する。
- **システム改革**：全学的な意識改革が進み、理系分野における制度改革の推進、男性研究者も参画する女性研究者支援が実現された。さらに、北東北国立3大学のネットワーク構築、自治体や地元 NPO 法人との連携による地域に潜在する人材を活用する女性研究者支援システムの構築も行われており評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進室が事業実施母体となり、事業内容に対応した明確な役割分担を行い、また、男女共同参画担当理事、総務部、財務部、研究推進部が連携し、全学的な体制で事業を推進したことが評価できる。
- **実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後も十分な予算を確保し取組を継続しており、取組の実施において中心的な役割を担う理系女性フェロー（特任教員）を含む男女共同参画推進室の体制も維持されており評価できる。今後の事業推進体制の確実な継続を期待する。